

河川砂防技術研究開発公募 流域計画・流域管理課題分野
平成30年度採択テーマ 中間評価結果

(中間評価1年目)

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	河川整備が進んだ河川流域における復興デザインの探究と水防災意識の再構築	大分大学 小林 祐司	a	水災害リスクの分析について研究が順調に実施されており、着実に研究が進められている。
概要	水防災意識社会の再構築に取り組むためには、とりわけ、住民主体のソフト対策が重要であり、さらに被災を想定しながら、安全・安心な地域社会形成のための次なるまちづくりのビジョンを共有することも求められる。そこで、災害リスクの共有と実践、避難行動への展開、地域課題の把握・共有、関係主体とのネットワーク構築を進め、復興デザインの概念を組み込んだ水防災意識社会の再構築を実践的に取り組むことを目的とする。			
テーマ	要配慮者施設における水害タイムライン策定支援に関する研究	山口大学 楠原 弘之	b	タイムライン作成に向けて水防災意識のアンケート調査・分析がなされるなど、一定の進捗は認められ、研究は順調に実施されている。
概要	1年目の本年度は、まず、高齢者福祉施設の実情を明らかにするためヒアリング調査を実施した。その結果を踏まえて、アンケート調査を実施した。山口県の全市町及び鳥取県、島根県の5市を対象に、水害時に浸水する可能性がある施設を各市町の地域防災計画・ハザードマップより抽出し、アンケート調査を実施した。アンケートの分析により、高齢者福祉施設の水害対策の課題や障害を明らかにした。			
テーマ	地域のタイムライン防災を軸とした住民目線での地域ハザード情報の活用した生活防災タイムラインの開発	大阪工業 大学 田中 耕司	c	住民の危機意識調査結果が分析されており、一定の進捗が認められる。しかしながら、日常の行動と避難行動との関係性をどのようなモデルで説明するのか仮説をたてて検証することが必要と考えられる。今後は本研究の目的を十分に達成するため、現時点で一度、研究計画を見直すことを条件に研究を継続する。
概要	本研究では、2011年に発生した紀伊半島大水害で甚大な被災経験をもつ紀宝町鮎田地区を対象に、地域の事前防災計画と住民の生活行動を結びつける生活防災タイムラインの基礎調査として、防災に結びつく生活行動の項目についてヒアリング調査を行った。地域内のハザード毎に分けた地域住民の趣味や生活行動に着目すると散歩、料理教室等、共通するところが多く、これらを地域の取り組みに考慮することで内外水氾濫や土石流の危険性がある地区住民の防災意識を向上させ地域が連携できる可能性を示した。			
テーマ	水災害リスクカーブ推定手法の高度化と社会変化・気候変化適応策評価への適用	京都大学 田中 智大	a	降雨の空間的な集中度を考慮した水害リスクカーブの設定を行うなど、着実に研究が進められている。
概要	河川整備と立地適正化による水災害軽減効果を総合的に評価するためには、治水安全度の変化と人口の変化によるリスクの空間分布の変化を反映できる水災害リスク評価方法が重要となる。そこで、地先のリスクに影響する本川と支川両方からなる浸水リスクを適切に表現する水災害リスクカーブ作成手法を開発した。さらに、開発した水災害リスクカーブ作成手法を用いた河川整備、立地誘導施策の評価方法を検討した。			
テーマ	菊池川流域における日本遺産を核としたかわまちづくり文化の再興	熊本大学 田中 尚人	b	流域の土木史的研究の基礎資料を収集するとともに、ワークショップなどの様々な活動を通じて、今後の活動基盤の構築がなされており研究は概ね順調に進められている。本研究の成功基準(サクセスクライテリア)とアウトプットの方向性を明確にして、研究を進展させることが望まれる。
概要	本研究は、熊本県北部を流れる菊池川流域において、多様な研究者が、自治体、地域住民など様々なステークホルダーと協働し、日本遺産に認定された流域の様々な文化財を核として、安心・安全で魅力的な地域づくりに資するかわまちづくり文化について研究し、実践するアクションリサーチである。本研究の目的は、土木史研究を基盤として、流域の治水・利水・環境・防災・景観のあるべき姿を描き、公民連携に基づく実践哲学を創造することである。			

(氏名五十音順、敬称略)

評価の凡例

- a: 研究が順調に実施されており、引き続き研究を推進する。
- b: 指摘事項に留意の上、引き続き研究を推進する。(指摘事項あり)
- c: 指摘事項を踏まえ研究計画を修正の上、研究を推進する。(指摘事項、条件付き)
- d: 現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難であるため、研究を終了する。